

# 令和3年度 企画展

会期  
令和3年 7月22日 祝・木  
～ 10月3日 日

会場  
葛飾区郷土と天文の博物館  
特別企画展示室

## 展示内容

- Ⅰ 浄光寺の文化財と江戸時代の葛飾
- ① 浄光寺の文化財
  - ② 御成記
  - ③ 江戸時代の葛飾
- ④ 新田開発と農業
- ⑤ 村の助け合い
  - ⑥ 民俗宗教
- Ⅱ 文化財を伝える
- ① 文化財を修復する
  - ② 葛飾区の間国玉
- Ⅲ 近現代の文化財
- ① 帝釈人車鉄道
  - ② 葛飾区のセルロイド産業

葛飾区指定有形文化財 絹本着色東照大権現(徳川家康)像一幀



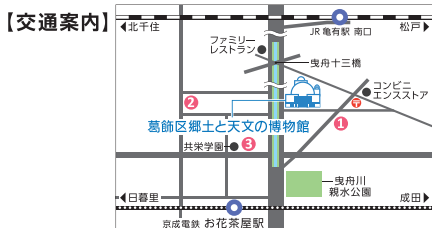
継承される一品

# 文化財展

葛飾区郷土と天文の博物館



葛飾区指定有形文化財 紙本墨画豊臣秀吉徳川家康中書一幀一対



【電車】  
京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分  
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分

【バス】  
① レインボーかつしか(有71・72・74系統)  
又は京成タウンバス(有70系統)で  
「白鳥わかば公園」バス下車 徒歩3分  
(有71・72……ウェルビアカツシカ～お花茶屋駅～亀有駅南口)  
(有74……ウェルビアカツシカ～亀有駅南口～新宿宿場)  
(有70……金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアカツシカ又はタウンバス車庫)  
② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス下車 徒歩5分  
③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス下車 徒歩5分  
(有57……亀有駅南口～お花茶屋駅～葛飾区役所又はタウンバス車庫)

【開館時間】 午前9時～午後5時、  
祝日以外の金・土曜日は午後9時(当面の間 午後5時まで)  
入館は閉館の30分前まで

【休館日】 月曜日、第2・4火曜日  
月曜祝日は開館、火曜祝日は開館しその直後の平日は休館

【入館料】 大人100(80)円、小・中学生50(40)円、幼児無料  
( )内は、20人以上の団体料金、土曜日は中学生以下無料

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用や入館時の検温などにご協力  
いただくとともに、入館制限を行う場合があります。

展示品、会期、開催日、開館時間については、今後の諸事情により変更する場合があります  
すので、葛飾区郷土と天文の博物館WEBサイトでご確認ください。

この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。

# 令和3年度 企画展 「文化財展 ～継承される一品～」

企画展「文化財展～継承される一品～」では、通常の企画展示や特別展示においてスペースの関係上活用することが少ない館蔵の文化財を中心に展示します。併わせて平成25年(2013)より歴史資料の調査を実施している区内最大の文化財所有者である東四つ木の浄光寺(木下川薬師)(以下浄光寺)の文化財と所蔵資料についても展示を行います。

葛飾区の先人のみならず現在も貴重な資料を守り伝え続けている区民との協力で実現した本展の開催は、意義ある稀な機会であり、今回のみどころでもあります。この展示をきっかけとして文化財の魅力を届け、ひとりでも多くの方に文化財に親しんでいただきたいと思います。

## I 浄光寺の文化財と江戸時代の葛飾

### 浄光寺の文化財

葛飾区東四つ木の浄光寺は区内有数の古刹です。江戸時代、徳川将軍家の祈願所となり、徳川吉宗の鷹狩り以来、歴代将軍がたびたび休憩所として利用しました。そのときのもてなしの様子を記した「御成記」が残されています。

また、徳川家康の肖像画「絹本着色東照大権現(徳川家康)像一幅」を始めとする数々の徳川家ゆかりの文化財は圧巻です。

浄光寺は、明治以降、勝海舟など文人墨客も訪れる東京東郊の行楽地として知られ、西郷南洲(隆盛)の碑などが建立されています。

### 江戸時代の葛飾

また、江戸時代の葛飾区域の村の暮らしを伝える文化財「細谷家文書」「平野家文書」「中荃家文書」などの指定・登録文化財をひもとき、江戸時代の生活互助のありかた、農業の様子、人々が伝えてきた民俗宗教などを見ていきます。

## II 文化財を伝える

### 文化財を修復する

現在伝えられている文化財の中には、長い年月を経てきたために一部が劣化したり元の姿がわかりにくくなっているものがあります。それらを修復し、調査して後世に伝えることも大切な仕事です。平成30年度に登録文化財となった板絵着色産育祈願小絵馬の修復作業、博物館で複製を作成した井戸掘絵額などをご紹介します。

### 葛飾区の間人国宝

人間国宝とは重要無形文化財を保持する人に対する称号です。葛飾区には染色技法を保持する人間国宝がおられます。清水幸太郎氏(1897-1988)は江戸時代以来の浴衣などの染色技法である長板中形の技術保持者として、小宮定吉(雅号康助)氏(1882-1961)は武家の礼服の袴などを発祥とする「江戸小紋」の技術保持者としてそれぞれ昭和30年(1955)に重要無形文化財保持者に認定されました。

このうち江戸小紋の技術は定吉氏から子息の小宮康孝氏(1925-2017)へ、さらに康孝氏の子息である小宮康正氏(1956-)に受け継がれ、初めて同じ分野で三代続く国の重要無形文化財の保持者となりました。

## III 近現代の文化財

「帝釈人車鉄道関係文書」は、明治31年(1898)金町と柴又の間に敷設された帝釈人車鉄道に関わる資料です。人車鉄道は人が動力となって客車を動かすというユニークな鉄道で全国でもめずらしいものでした。今回はこのうち帝釈人車鉄道の開設、運営、廃止を物語る資料を展示します。

「葛飾区セルロイド工業発祥記念碑(写真パネル)」は近現代の葛飾区の代表的な産業であるセルロイド産業にかかわる資料です。「ブリキ玩具ジープ」は昭和21年(1946)から23年(1948)ころにかけて柴又の工場でブリキを材料に、進駐軍のジープを模して作られていた玩具です。

また、近年まで区内の建造物の一部として使われていた「龍こて絵」も公開します。